

施策評価シート(令和2年度)

(基本施策の大綱) 2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実

(基本施策) (1) 地域福祉力の向上

(評価担当者)

健康福祉部長 小林 恵太

■ 基本施策が目指す姿

市民が、地域での見守りや互いの支え合いの活動により、安心して生き生きと暮らしています。

■ 関連する分野別計画

第2次亀山市地域福祉計画

■ 成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	R1	R2	R3	
1	亀山市ボランティアセンターの登録者数	人	751	H27	697	747	755	719		900
2	ふれあいいきいきサロン活動及び子育てサロンの設置団体数	団体	60	H27	88	99	123	112		110
3	生活保護世帯で就労能力・意欲のある者が就労・増収となった世帯の割合	%	50	H27	40	47	43	50		50以上

■ 市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	ボランティア活動が活発に行われている	重要度 0.82 満足度 ▲ 0.21	0.66 ▲ 0.47	0.69 ▲ 0.40	
2		重要度 満足度			
3		重要度 満足度			
4		重要度 満足度			
5		重要度 満足度			

■ 総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	地域福祉力強化推進事業では、市に相談支援包括化推進員を配置し、社会福祉協議会と連携しながら、新たに多機関協働による包括的支援体制づくりに取り組み、複合的な福祉課題を抱える世帯情報をCSWに集約するつながるシートを導入し、世帯全体のトータルケアプランを作成・管理する相談支援包括化サポート会議を設置した。また、生活困窮者自立支援法に基づく支援会議も開催し、関係機関と情報共有できる体制を整え、支援者の支援活動の活発化につなげた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、全世帯に対し特別定額給付金を支給するとともに、離職等と同程度の状態の世帯に対する住居確保給付金の支給を行った。しかしながら、助け合い・支え合いのしくみ「ちょこボラ」は全市域的な波及まで至らず、総合判定をBとした。
反省点・課題	
地域福祉を支える人や組織は、担い手の減少・高齢化が進んでいる中で、従来型の対象や特定の人に頼ったボランティアの組織ではなく、既存の組織間を繋いだり、新たな担い手を発掘したりするなど、全体をコーディネートする機能を高めた新たな形態の支援体制が求められている。市内では、昔ながらの関係が希薄になっている地域がある中、地域の実情に応じた助け合い・支え合いのしくみづくりを進めつつ、その進捗管理が必要である。また、複合的な福祉課題を抱える世帯が、地域福祉力強化推進事業(CSW)や生活困窮者自立支援事業(自立相談員)の実施により顕在化しつつあり、個別ケースの支援とともに、地域の生活に戻したり、就労支援を試みるが、障がい特性があり、その受容が全くできない世帯が多いことから、課題解決に繋がりにくい現状がある。	

今後の展開方針

ボランティア力の向上に向けて、基金の活用も視野に入れたボランティアの発掘や育成、またボランティアの連携やコーディネート機能の強化等、関係機関との協議や検討を進める。新たな重層的支援体制整備事業(任意)により、従来の分野を超えた相談支援・地域づくりが可能となることから、新たなしくみ創りだけでなく、既存の資源と資源を繋ぎ合わせるなど、地域資源を有効に活用できる体制づくりを進める。重層的支援体制整備事業への移行準備事業を進め、高齢・障がい・子ども・生活困窮分野における相談支援・地域づくりに関する現状をヒアリングや市民アンケートなどにより把握しながら、総合相談窓口の明確化はもとより、事業全体のコーディネート機能や保有すべき機能について健康福祉部内で検討を進め、第2次亀山市地域福祉(活動)計画に位置づけていく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		地域福祉を支える人と組織の育成				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
B	活動	社会福祉協議会に設置したボランティアセンターに、コーディネーターを配置し、ボランティアの発掘・登録、育成、活動支援助成などを行うことにより、ボランティア活動に参加しやすい環境づくりを進めた。 あいあい祭り2020は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、あいあいの機能見直しに向け、利用者団体へのヒアリング調査を予算化した。	評価	ボランティアセンターへの登録団体・人数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少するとともに、登録者の高齢化が進んでいる。従来のボランティアのあり方を世代や属性を超えたボランティアへの転換が求められる。あいあい祭りの開催により団体間交流が一定図れたものの、活動団体間の交流について、新たな視点を加える必要がある。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)	標	68,800 / 50,600	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向		安心して福祉サービスを利用できる環境づくり				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A	活動	国のモデル事業を活用した地域福祉力強化推進事業により、社会福祉協議会にCSWを配置し、各関係機関につながった複雑化・複合化した福祉課題を抱えた世帯をCSWに集約するつながるシートを導入した。また、市の相談支援包括化推進員を司令塔とし、必要に応じて世帯全体のトータルケアプランを作成・管理する会議体を設置した。	評価	誰もが安心して福祉サービスを利用できるよう、高齢・障がい・子ども・生活困窮はもとより、教育(幼稚園、保育所、認定子ども園、小中学校など)につながった分野を超えた福祉課題を集約する体制を整えたが、支援につながりにくい人が支援につながりつつある中で、継続的な相談支援とともに、一人ひとりの実情に応じられる体制づくりが必要である。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)	標	68,800 / 50,600	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向		地域での助け合い・支え合いのしくみづくり				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
B	活動	新型コロナウイルス感染症の影響により、活動するサロンの数は減少したものの、新たに4箇所で開催がはじまるなど、サロン活動(112団体)を支援した。また、社会福祉協議会に委託した地域福祉力強化推進事業において、地域まちづくり協議会等の地域の支援者を対象としたちょこボラをテーマとしたボランティア講座を開催した。	評価	住民の身近な場所での憩いの場であるサロン活動は、年々増加傾向にあるものの、高齢者のサロンに子どもが参加するなど、既存の資源を有効に活用できるようコーディネート機能を高めていく必要がある。また、地域づくりの面では、CSWの個別課題から顕在化している福祉課題を地域の資源で解決できるちょこボラのようなしくみを地域の実情に応じて整えていく必要がある。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	18001	地域福祉力強化推進事業	主	12,600 / 12,600	A	B
事業以外の取組	3009-1	地域団体支援事業(社会福祉協議会)	標	68,800 / 50,600	A	A
	内容				活動	成果

施策の方向		低所得者への支援と自立支援の推進				
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A	活動	生活困窮者自立支援として、生活上の諸課題を抱えた市民の情報を関係機関で共有できる支援会議を新たに設置した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、生活困窮者の相談が大幅に増加したが、自立相談支援等に加え、住居確保給付金を組み合わせながら、歩行的な相談支援を展開した。更に国の特別定額給付金の支給により、困窮者の自立支援に繋がった。	評価	本人同意の有無に関わらず、支援関係機関同士が情報を共有できることにより、生活困窮者を早期に把握できる体制や、CSWに複雑化・複合化したケースを集約する体制を整えたことにより、支援につながりにくかった方への相談支援の体制づくりが進んだものの、対象者との関係性の構築はもとより、地域につなぎ戻すため、継続的に関わり続ける時間が相当必要である。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17040	生活困窮者自立支援事業(自立相談支援事業等)	主	22,586 / 22,560	A	B
事業以外の取組	20005	就学援助家庭オンライン学習支援事業	主	18,700 / 17,948	A	A
	内容				活動	成果